

<探究コース・卒論発表会参観記>

生徒と担当の先生方の努力があふれる発表会

1月25日4～6時間目、卒論発表会を参観しました。一覧を見ると私の興味を刺激する発表題目がいくつもあり、教室の移動時間も考えて以下の発表を見ました。

- ・佐久間音葉さん「弥富市に津波が来たら」（地域）
- ・加藤邦秀英さん「トマトと大仏」（地域）
- ・山内雅治さん「はだかを広げて町おこし」（地域）
- ・服部拓哉さん「ゆるキャラで飛鳥村を町おこし」（地域）
- ・中島優吾さん「心理 Mind&Soul」（自然）
- ・服部愛梨さん「日本と海外の学校生活の違い」（国際）
- ・梅村敦也さん「在日外国人向け労働者の環境を整える」（国際）
- ・栗山リンダさん「スポーツにおける声の重要性」（アスリート・早川ゼミ）



加藤邦秀英さん「トマトと大仏」の発表。東海市聚楽園の大仏（1927年に昭和天皇ご成婚記念に開眼供養）に東海市特産のトマトを「ぶつける」イベントを町おこしとして提案。イタリアの「トマティーナ」を模しての奇抜な提案ですが、「トマトには錆をとる効果があって一石二鳥」という理由づけがユニークでした。

山内雅治さん「はだかを広げて町おこし」の発表。稲沢市在住の私としてはきかなくてはと思って参観しました。発表は「はだか（祭り）」でなく「イチヨウ」が中心で、近年合併した祖父江町の出身のように。祖父江のイチヨウは有名で、私は静岡から大型バスで撮影に来た写真グループと出会ったことがあります。イチヨウアートは案外可能性があるかもしれません。



栗山リンダさん「スポーツにおける声の重要性」の発表。自分が取り組むスポーツ（柔道）だけでなく、剣道や野球など他種目にも目配りをした研究です。剣道は声を出さないと「1本」として認定されないことを初めて知りました。対面的競技と、フィギュアスケートなどとの違いを質問したかったけど時間切れでした。

< 参観して思った事 >

・卒論発表会も年を重ねる毎に発展していると感じました。探究基礎からの積み重ねの中で担当の先生方の努力が蓄積されているのでしょう。パワーポイントの作り方を含めたプレゼンは声量も含めて確実に向上していると感じました。また、統計やアンケート、理論的根拠づけなども意識されています。



・「研究の動機」も各自述べられており、「国際」のように合衆国短期留学がきっかけになったり、自分が住む町を何とかしたいという思いがあったりと様々ですが「探究」の本質である<自分を軸にした学び>が黎明高校に根づいてきていると感じます。

・卒論自体はA4用紙にワープロ打ちしたものでかなりの分量があり、数分間のプレゼンでは語り尽くせない事や伝わりきらない事もあるかと思えます。そこで二つの事を検討してみたらどうでしょうか。

1) 発表会には人数と時間の制約があるのでやむを得ない面がありますが、生徒による質疑応答ができるよう何かしら工夫できないでしょうか？発表者は聞き手の反応を気にします。先生方による質問も良いのですが、生徒による質問や感想がでるようになると雰囲気は変わると思えます。その意味では教員には「忍耐」がいるかもしれません。最初からは難しいので、コースやゼミ単位で出し合うのがあたり前になると良いですね。三重大の講座でもこの事に苦勞し、ポスターセッションを導入しました。普通の発表とポスター発表を希望によって分割しました。聞き手との直接的やりとりをしたい学生はポスターを選ぶようです。2教室に50分間セッションを各10人ずつ作り聞き手は自由に動きます。この方が聞き手の学生も質問や意見を出しやすいようで好評でした。

2) 優秀な作品に限ってでも良いので、卒論の現物を一定期間図書室などに展示してはどうでしょうか。手に取って読むのは「気になる友人、先輩」という面と「気になるテーマ」という二つの面があるので、研究成果が他者（特に後輩たち）の興味を引き出したり刺激する機会になるのではないかと思います。

以上のような二つの点が少しでも工夫されて<研究-発表-共有>のサイクルが進むと全体的なレベルアップにつながるのではないかと思います。

看護専攻科2年生の「教育学」の授業で毎回生徒による発表を組んできましたが、生徒から出された以下のような感想からもそのように思いました。

「自分の考えだけで終わらず、他の人の考えも知ることにより一層考えが深まると思いました。」

「質問があると嬉しいのですが、やはり反応がないと切ない気持ちに気づきました。他の子の発表を聞いていると先生とは違ってあの子がどんな発表をするのか気になって楽しい気持ちで話を聞くことができ、身近な親しい友達の発表と先生が行う授業ではやはり気持ちの変化、聞く意欲の差がありました。そしてなによりみんなの発表は受け入れやすいなと一番感じました。自分が発表する準備段階と同じで、みんなの発表は自分たちで納得したうえで分かりやすいように発表してくれている為聞く側も理解しやすいと思いました。」